

岩手医科大学歯学会第72回例会抄録

日時：平成23年7月2日（土） 午後1時より

会場：岩手医科大学歯学部第四講義室（C棟6F）

特別講演 I

歯科における微小循環，特に毛細リンパ管の重要性

藤村 朗

岩手医科大学解剖学講座機能形態学分野

脈管系は組織の発生，恒常性の維持（修復，再生など）という生体のすべてのイベントに重要な働きをしています。しかしながら，形態学でいうところの「脈管」というと心臓から出る動脈，心臓に戻る静脈と言った認識がある程度で，リンパ管の存在は忘れ去られていました。リンパ管の主な役割は血管から出た水成分の再吸収（10 - 20%）と巨大分子（アルブミン，脂肪等）の吸収です。血管との違いは管腔から出るものではなく，入る（吸い込む）方向のみの物質透過であることです。歯科的な観点からは歯周疾患における歯肉の浮腫に対するマッサージが考えられておりますし，臨床的な観点からは炎症や感染時のリンパ節腫脹，腫瘍の転移経路として所属リンパ節またはセンチネルリンパ節として注目されております。我々は特に，センチネルリンパ節や所属リンパ節という考え方から，薬剤投与経路としてリンパ管を利用することを目的として現在研究を進めております。腫瘍に対する化学療法で最も問題となるのは副作用の発症で，そのほとんどは薬剤投与量に依存しております。すなわち，投与量を減らせば副作用は起きません。しかしながら，量が減れば，抗癌作用も減少しますので投与の意味がなくなります。そこで，局所（原発巣および転移リンパ節）に高濃度，全身的には低濃度という条件を満たす方法として薬剤を局所注射し，局所および所属リンパ節に高濃度でその他の全身ではほとんど薬剤が検出されないことを確認しました。現在は薬学部創剤学講座との共同研究で，

リンパ管指向性で徐放性を有するリポソーム化製剤の開発に着手，さらに将来的には注射ではなく，粘膜経由薬剤の開発を目標として研究を進めています。また，口腔領域の部位による粘膜下リンパ管構築を検索することで有効な投与部位や薬剤投与のためのステント作製にも入っておりますので，その詳細をご紹介します。

特別講演 II

口腔癌を見逃さないために

星 秀樹

岩手医科大学歯学部口腔外科学講座
歯科口腔外科分野

口腔癌は舌癌を中心に増加傾向に，さらに若年化の傾向にあります。他部位の癌と同様に口腔癌に対しても有効な抗癌薬の開発，治療技術の向上など，治療法の進歩により制御率，生存率の向上がみられます。しかし，早期発見，早期治療にまさるものはありません。特に口腔癌の治療においては治療後の機能温存，形態の温存が他部位の癌と比べ比重が重いことから，早期発見は治療後の社会復帰を含め重要な治療の要件になります。そのため口腔内を含め頭頸部領域の治療に日頃たずさわる歯科医師の責任は重要です。最近では，岩手県を含め全国的に地域の中核となる病院の口腔外科医を中心に口腔癌検診への取り組み，各地域での口腔癌に対する啓蒙活動も始まってきています。

今回の講演では，口腔癌の臨床像を中心に，前癌病変，口腔癌と鑑別が必要な病変などを紹介し，少しでも日頃の診療の参考にしていただければ幸いです。